

美という名のエネルギー

vol.8

栗原直弘

(古美術商)

第三章 「美」の意味と価値 ①

「美」に対する意識

ご依頼とはいいいながら、一介の骨董屋の店主が理屈を捏ね、芸術論を云々するには訳があります。

原宿・表参道にある私の店で、国籍を問わず多くのお客様のお相手をし、同業者、美術館関係者や美術系の教育機関などの皆様とお話しをするうちに、これからの美術業界に強い危機感を抱いたからなのです。言うまでもなく、弊社にお越しになる皆様

は、それぞれお好みやご専門のジャンルに関する知識や見識は豊富なのです。しかしながら、そのような方々が「美しいとは何か」「何故それをして美とするか」「美の価値とは何か」さらに、「美を愛でる意味」や「美を蒐集する目的」を明確に認識、理解しているかは別の話なのです。

戦後の経済成長とともに、美術品や古美術の市場は大きく広がりました。特に、バブル期の金銭的な評価には目を見張るものがあり、多くの人々に「高額作品」が「良い美術品」であるような、大きな勘違いを引き起こしたのです。

その後のバブル崩壊によって、美術品や古美術の価格や評価は大きく下落し、昨年のリーマンショック以降は、とうとうその価値や意味すら失われつつあります。このような状況にいたる原因を考えた時、そこに見えてきたのは「美意識」の欠落でした。

金銭的価値の崩壊

バブル期の美術品や古美術の価格の高騰は、「美」とは関係ない投機的なマネーが美術市場に流入したことにあります。このような現象は、現在でも国際的なオークションで繰り返されており、近年では仕手戦のような投機的動きやマネーロンダリングのような動きさえ見え隠れしています。

このような投機マネーにとっては、「美」の持つ意味などは関係なく、「美」は一つの

手段でありツールでしかありません。

投機マネーは津波のようなものです。この津波が美術品や古美術の価値や価格を翻弄するばかりでなく、美術市場自体の破壊を招くことを、私たちは知らなければなりません。

「美」そのものと向き合うことなく、金銭的な価値と評価による美術市場は、金銭的価値の崩壊によって、「美」それ自体の評価や価値の崩壊へと繋がることを知るべきでしょう。

「美」の意味と価値

いうまでもなく、美術品や古美術の価値や評価は、オークションの落札価格などの金銭的な価値や評価ではありません。

そもそも、美術品や古美術の価値や価格

は相対的な価値観によるものなのです。このことは、現在一流の芸術作品や美術品、古美術として認知、評価されているものでも、社会や人間の価値観の変化によっては、その価格や金銭的な価値も変化し、ただの消費財のようになる可能性もあるということなのです。

蒐集という面でも、人間国宝の作品であろうと、中国古陶磁であろうと、茶道具や民藝であろうと、それらに上下や優劣はなく、それらの作品や価値は、それぞれの人の価値観、それぞれの作品と出会う人々の「縁」や「好み」なのです。そして、そのような「縁」や「好み」の根源には「美」の持つエネルギーがあるのです。

前回までの二章で、美術品や古美術の種類と質を判断するために、「美」をエネルギー

として理解する方法論を示し、「美」の発生と成り立ちをお話ししてきました。これは、より多くの人達に美術品や古美術に興味を持っていただくための方便なのです。

そして、今回から始まる第三章では、美術品や古美術の蒐集の意味と価値観を、大きく四種類に分けてお話ししたいと思います。

その四種類とは①「美術品としての価値」、②「芸術作品としての価値」、③「学術的な価値」、そして④「蒐集家にとっての価値」です。

私達が美術品や古美術の何に価値を見い出したかを探ることで、「美」の本質を理解するとともに、「美」を愛でる意味や、「美」を蒐集する意義を考察したいと希望しています。

(次号へ)